

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 22 年度第 1 回スポーツ振興審議会
開催日時	平成 22 年 9 月 1 日(水) 15 時 00 分～16 時 60 分
開催場所	高松市役所 11 階 113 会議室
議 題	会長・副会長の選任について スポーツ指導者の充実・活用および資質向上について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	穴吹委員，岡田委員，城門委員，野崎委員，長谷川委員，花房委員，七條委員，松本委員，山下委員
傍 聴 者	0 人 (定員 5 人)
担当課および 連絡先	スポーツ振興課 839-2626

会議経過および会議結果

【会議の経過】

- (1) 各委員の紹介。
- (2) 加藤国際文化・スポーツ局長のあいさつの後，高松市スポーツ審議会条例第 6 条 1 項の規定に基づき，委員の互選により，会長には野崎委員，副会長には城門委員，長谷川委員が選ばれた。
- (3) 事務局から会議成立の報告の後，会議の公開について委員会に諮り，審議した結果，公開とすることを決定した。
- (4) 事務局から諮問書を配布した後，議題の「スポーツ指導者の充実・活用および資質向上について」事務局から説明。
- (5) 報告事項
 - 1 高松市スポーツ振興基本計画について
 - 2 屋島陸上競技場の再整備について
 - 3 南部地域の核となる特色あるスポーツ施設整備について
 - 4 スポーツ施設使用料の改定について

委員から意見を聴取した。

項目ごとの主な意見，質疑等は次のとおり。

議題

スポーツ指導者の充実・活用および資質向上について

会議経過および会議結果

【A 委員】

スポーツカレッジという名前は聞いたことはあるが、制度の内容は良く分からない。単位を取得しても、日本体育協会の資格のような公認性があるのかも明確ではないので、そういったことも受講者が減っている一因ではないか。認知度が低いままでは内容を充実させても効果がないので、PR に力を入れるべきではないか。

【B 委員】

リーダーバンク、スポーツカレッジともに今の現状に合っていない部分が見られる。まず、リーダーバンクだが、制度が知られていないため、生涯学習課の指導者派遣制度と比べても回数が少ない。スポーツの関連団体を始め、広く一般市民にも PR が必要である。

【C 委員】

各協会との連携も大事である。私の所属する協会では、講師の依頼を受けた時には、知り合いのつてであっても、協会を通じて、県のリーダーバンクの制度を使って派遣するようにしている。知り合いだからといって、協会や制度を介さずに指導を行うことは、制度の衰退にもつながり、良くない。指導者の公認資格を生かす意味でも制度の活用は重要であると考えます。行政だけの努力では制度の活用には限界があり、協会の協力も必要である。リーダーバンク制度を活用して指導者の派遣を行うことは、ひいては協会の PR にも繋がる。

【B 委員】

スポーツ振興基本計画の基本目標にあるように、成人の週1回以上のスポーツ実施率を上げるために、指導者の充実、活用を図ることは重要な事項であるが、既にスポーツを行っている人と、これから始めようとする人を別個に考える必要があるのではないか。

リーダーバンクに登録している指導者は、既にスポーツをしている人を指導する機会が多いと思うが、これから始めようとする人と指導者をつなげていくことが重要であり、そのためには、各協会や地区の団体等に頑張ってもらわなければならない。

成人の週1回以上のスポーツ実施率を上げるためにも、前向きに、新たに活動の方向性を定めていけたらと思う。私自身でも、リーダーバンクについて調べようと思うが、事務局でも他課や他市のリーダーバンク制度についてさらに調べていただきたい。

カレッジについては、A 委員から「資格を取得しても、資格を活かせない」という指摘があり、日本体育協会の資格などと比較しても、スポーツカレッジを取得したいという魅力が少ないと思われる。

【D 委員】

日本体育協会の資格等、非常に高度なものと違い、一般市民向けで、スポーツ指導者の資質の基盤を培うカレッジが、うまく機能する可能性があるのではないか。

【E 委員】

埼玉の女子栄養大学を中心として、「元気にし隊」という市民ボランティアグループが栄養や運動等の研究や催し物をしているが、高松にはそのような団体はあるのか。

会議経過および会議結果

【F 委員】

平成15年より、高松市保健センターで、介護予防を目的とした「元気を広げるリーダー養成会」が開催されている。元気を広げる「人」を養成している。

【E 委員】

高松市では保健と体育がうまく連携できていない。また、「リーダーバンク」という響きは、既にスポーツをしている人を対象としており、これから始めようとする人に対して、ハードルが高いように感じられる。

【B 委員】

保健行政と体育行政が連携すれば、さらに幅広い活動ができると思われる。スポーツ振興基本計画の時にも話が出たが、今後、成人の週1回以上のスポーツ実施率を上げることを考えたときには、「スポーツ」の意味を、健康づくり、体力づくりを含めた広い意味で捉えることが必要である。リーダーバンクのカテゴリーでも、「健康づくり」や「体力づくり」があっても良いのではないか。また、カレッジにおいても、「健康づくり」や「体力づくり」も対象とする等の多様性をもった新たな事業として捉えると良いのではないか。

また、かつては、コミュニティ活動の一環として、スポーツの講義（カレッジ）をしていたが、その時に集まった人が、現在も活動を続けているケースもある。今後のスポーツカレッジでは、新たに集まった人が、新しい活動を展開していくといった生産性のある内容のものへと、質の転換を図る必要があるのではないか。

【C 委員】

かつては、スポーツカレッジとは地区体育協会と連携して、指導者を育てる会で、各競技団体からも多くの参加があったが、いつの間にか体育指導委員の必須科目となり、参加者も体育指導委員ばかりになってしまった。また、かつては予算もあり、著名人を呼んでの講義もあった。

一般の参加が少なくなってしまうが、原点に戻り、一般の方が参加する会にしなければいけない。問題は資格を取った後の活用をどうするのか。

会議経過および会議結果

報告事項

1 高松市スポーツ振興基本計画について

【A委員】

「見つけようわたしのスポーツ」の項目の数値目標でホームページのアクセス数があげられているが、パソコンを持っていない人には、ホームページから情報を得ることをしないのでこの目標はいかがなものか。

【事務局】

パソコンを持っていない人には、体育指導委員を通じて地域に情報発信し、対応していく予定である。

【B委員】

数値目標ということでホームページアクセス数としているが、これは、わかりやすい数値ということをしている。一番大切なのは、市民により多くの情報があり、それでスポーツ活動をする人が増えることである。

2 屋島陸上競技場の再整備について

【F委員】

再整備後の陸上競技場にトレーナー室はあるのか。

【事務局】

基本的には第二種公認陸上競技場として整備していくが、具体的な設計はこれからなので決まっていない。今後様々な御意見などもいただきながら設計を進めていく。

3 南部地域の核となる特色あるスポーツ施設整備について

質疑なし

4 スポーツ施設使用料の改定について

質疑なし